

「城下町くまもと きてくだ祭～あれから 1 年、ここまで元気になりました～」に協力



4月15日、16日の2日間、上通、下通、サンロード新市街など、熊本市の中心商店街一帯で、復興に向け前に進んでいる熊本の元気を全国に発信するイベント「城下町くまもと きてくだ祭～あれから 1 年、ここまで元気になりました～」が開催されました。

2017年4月15日、16日（熊本市中心商店街一帯）

地域の活性化支援

平成28年熊本地震から1年を迎えた4月15日、16日の2日間、上通、下通、サンロード新市街など、熊本市の中心商店街一帯で、復興に向け前に進んでいる熊本の元気を全国に発信するイベント「城下町くまもと きてくだ祭～あれから 1 年、ここまで元気になりました～」が開催された。

同イベントには、熊本城の復興と連動する中心市街地の活性化支援のために、昨年11月にキリングroupから熊本市へ贈呈した1,000万円のうちの一部が活用された。

15日のオープニングには、大西一史熊本市長も登壇し、「街中に活気が戻ることが熊本の復興にもつながります」と挨拶。特設ステージでは地元テレビ局によるのど自慢大会の生放送や、ダンス、ライブ、キャラクターショーが行われたほか、中心商店街各所でも、こども縁日、ふれあい動物園、段ボール迷路、アート看板制作、商店街各店が参加しての復興セールなどが催され、両日も親子連れなど大勢の人で賑わった。

キリン株式会社でも、のど自慢大会参加者に参加賞として「午後の紅茶」各1ケースを提供した。さらに、復旧が進んだ中心市街地を回遊する「まちなかスタンプラリー」にも協力。スタンプを集めた参加者へキリンビバレッジの「生茶」「午後の紅茶 おいしい無糖 / ミルクティー」「小岩井純水りんご」をプレゼントした。

また、15日には4月にキリンビールが発売した一番搾り製法を用いたノンアルコール・ビールテイスト飲料「キリン 零 ICHI（ゼロイチ）」のサンプリングも実施。開始直後から行列ができ、用意した約1,200缶が約45分でなくなる盛況ぶりだった。



笑顔で結ぶ。人を、日本を。

コメント①

熊本市長 大西 一史 様

1年前のことを振り返ると、まだ胸が締め付けられる思いがいたします。「城下町くまもと きてくだ祭」の会場である中心商店街も、地震発生直後からの数日は誰も通りを歩いていない状態でした。しかし、そこから各商店街の皆さんの努力で徐々に活気を取り戻し、こうして再び多くの方々が足を運び、集う場所になっているのを見ると、「さあ、これから復興に向けて、さらに頑張っていこう！」という前向きな気持ちになれます。今日来ていただいた皆さんにも、この中心商店街のエネルギーを持ち帰ってもらい、共に前に進んでいきましょう。



コメント②

熊本市中心商店街等連合協議会 会長 「城下町くまもと きてくだ祭」実行委員長 松永 和典 様

熊本地震から1年が経ちましたが、まだ県内では約4.7万人の方が仮設住宅などでの生活を余儀なくされています。「城下町くまもと きてくだ祭」は、そうした方々に少しでも元気になってもらいたい、そして「あの日」のことを忘れないために企画したイベントです。イベント開催にあたっては、キリングループから熊本市へ贈られた「熊本地震復旧・復興寄附金」の一部を活用させていただいたほか、商品のご提供もいただき心より感謝申し上げます。次の世代に「今よりもいい熊本」を引き継ぐためにも、行政などと連携しながら30年後の中心市街地のランドデザインを考えていきたいと思います。



コメント③

シンガーソングライター MICA（ミカ）様

私にとって熊本地震以降の1年は、「当たり前の大切さ」を改めて感じた1年でした。先日も、復興応援ソングを作るために益城町に足を運び、あちこちが更地になっているのを見て、「ほんの1年前までは、ここに人の暮らしがあったのに」とやるせない気持ちになりました。それでも人は、置かれた状況で「今」を生きていかなければいけません。そんな時に皆さんが少しでも笑顔になったり、前を向けるような曲をお届けできるように頑張っていきたいと思います。



コメント④

まちなかスタンプラリー参加者 稲田 あゆみ 様親子

テレビ告知で「城下町くまもと きてくだ祭」のことを知り、娘たちを連れて中心商店街に足を運びました。スタンプラリーのゴールが1位だったとは全然知らなくて…（笑）今日もこのあと、迷路や動物との触れ合いや縁日など、いろいろなイベントがあるので、子どもと一緒に楽しみたいと思います。こうしたイベントを通じて、街中に賑わいが戻ってくるといいですね。



コメント⑤

まちなかスタンプラリー参加者 竹下 綾 様親子

街中まで歩いて来られる距離に住んでいますが、ちょうど1年前の今日、中心商店街を歩いて市役所に水をもらいに行ったのを思い出します。昼間なのにどの店もシャッターが閉まっていた、異様な雰囲気でした。今日のように街中が多くの人で賑わう楽しい雰囲気が、これからも続くといいですね。



コメント⑥

まちなかスタンプラリー参加者 若本 知佳 様親子

スタンプラリーに参加したことで、街中でも自分の知らなかったところに行けて良かったです。まだ地震の影響を受けて工事中の建物などがある半面、すでに復旧しているところもあり、確実に復旧・復興が進んでいる実感がわきました。子ども連れで参加できる街中のイベントが少ないので、親子で楽しめるイベントはとても嬉しいです。



コメント⑦

麒麟ビール株式会社 熊本支社長 麻生 芳彦

熊本地震から1年が経過し、熊本の中心市街地にもようやく活気が戻ってきたように感じます。そうした街中の元気を発信する「城下町くまもと きてくだ祭」にキリングループとして協力させていただき感謝致します。今回はスタンプラリーやのど自慢大会への賞品提供に加えて、4月10日に発売したノンアルコール・ビールテイスト飲料「麒麟 零 ICHI (ゼロイチ)」のサンプリングも行い、たくさんの皆さまに手に取っていただきました。キリングループでは、今後も「復興支援 麒麟絆プロジェクト」を通じて、被災地への息の長い支援を継続していきたいと思っております。



コメント⑧

麒麟ビバレッジ株式会社九州地区本部

南九州支社長 兼 営業担当部長 折本 太 (写真左)

地震から1年で、予想以上に復旧復興が進んでいるのを嬉しく思うと同時に、キリングループもその支援の一端に関わらせていただいていることに感謝しています。「生茶」に付いているベルマークの回収・寄贈など、商品を通じた社会貢献が、これからも熊本の復興にわずかでも役立ち、皆さんの笑顔が少しでも増えればと思います。

南九州支社 営業担当 部長代理 佐藤 太 (写真右)

熊本地震から1年が経過しましたが、益城町、南阿蘇村、西原村などは復旧もまだまだこれからで、「ここがスタート」と感じています。麒麟ビバレッジでも、「午後の紅茶」のCM撮影を南阿蘇村で行いましたが、お客さまから「応援してくれてありがとう」との声をいただき、ありがたく思っています。「城下町くまもと きてくだ祭」を通して発信された元気が、熊本全体に波及していけばと思います。

